

戸籍の窓

【8月 1日～ 8月31日届出】

ご結婚おめでとう

氏名	住所
齋藤 清人	荒砥乙
新関 比呂恵	荒砥乙
船山 良太	荒砥甲
石山 麻衣	山形市
井上 正	広野
布施 瞳	中山
齋藤 司	畔藤
新野 千宙	広野
丸川 和幸	横田尻
高橋 深雪	川西町

こんにちは赤ちゃん

住所	父母の名	子の名
黒鴨 原田	宏一 みお奈	白愛里
高玉 金田	浩和 美知子	ひろ夢
鮎貝 齋藤	大介 一美	しゅんすけ 峻 佑
滝野 海谷	孝二 幸恵	ももか 百 華

お く や み

住所	氏名	年齢
十王	長谷川 トサノ	97
荒砥乙	小形 きよ	97
萩野	梅津 秀子	81
畔藤	佐藤 小次郎	80
横田尻	孫田 文子	66
鮎貝	今 ゆみ	93
荒砥甲	長谷部 昭作	73
鮎貝	原田 雄一	86
横田尻	笹原 傳四郎	78
荒砥甲	増川 弘司	60
荒砥甲	小林 重郎	86
横田尻	土屋 利男	92
浅立	高橋 ゆき	90

観光協会からのお知らせ

9月は鮎漁の最盛期！ 今月は白鷹のヤナ漁についてご紹介します。
「最上川がもたらす恵み」しらたかの鮎について



鮎は晩秋に河口付近でふ化し、海に出てプランクトンを食べ寒い冬を越した後、春には生まれ育った川に遡上するという本能があります。最上川は県内を流れる最も長い川であり、その上流部に位置する白鷹で獲れる鮎は、相当長い距離を遡上することになります。それだけ体力がある「強い鮎」でもあるわけです。体側に赤い線の入ったひときわ大きなアユは「紅葉鮎（もみじあゆ）」と呼ばれとても珍重されており、それが白鷹の鮎の特徴ともなっています。

鮎は「香魚（こうぎょ）」とも呼ばれ、その姿・独特の香りから”川魚の女王”として昔から人々に好まれてきました。秋に河口付近で産卵、三週間ほどでふ化した稚魚は海へ出て越冬し、春先に水温上昇の早い川を捜し、餌場を求め何百・何千という大群の帯となって遡上します。



良質の餌場に辿り着くと、それぞれが群れから離れ「なわばり」をつくり自分の餌場を確保します。青年期としてひと夏を過ごし立派な成魚期に入った鮎は、やがて産卵のために河口を目指し川を下るのですが、そんな鮎の習性を利用したのがこの「ヤナ漁」なのです。

ヤナ場には川底の過度な傾斜と程よい水量、そしてそこに魚が棲息していることが必要です。ヤナ場を作るポイントや急激な自然の落差のある場所を選ぶこと。これによって流れの速度が増し、魚がヤナに「落ちる」ことになるわけです。鮎まつり期間中も、運が良ければヤナに落ちる鮎を間近で見られるかもしれません。

【お詫びと訂正】
前回(8月号)しらたかの夏まつり情報にて「下山庭渡神社例大祭」とありましたが正しくは「第22回下山夏まつり」の誤りでした。ここにお詫びして訂正いたします。

情報やお問い合わせにつきましては観光協会(86-0086)まで。
ホームページでも随時情報を発信しております。

白鷹町観光協会 検索

▼8月のまちづくり座談会にはたくさんのかたにご参加いただき、ありがとうございました。どの地区でも豪雨災害についてのご質問が多く、改めて被害の大きさを感じました。たびたび二ユースで流れる全国各地での自然災害。防災への備えを改めて考えた夏でした。
▼お盆が過ぎてあつという間に9月になり、朝晩だいぶ涼しくなりました。田んぼの稲も黄金色になり、残暑の中にも秋を感じます。実りの秋、スポーツの秋で、若鮎マラソン大会、鮎まつりと、町外からもたくさんのかたを迎えるイベントが開催されます。「〇〇の秋」、みなさんにとって今年は何の秋になるでしょうか。(すだ)



戸籍の窓にのせたくないかたは、届出のときに戸籍年金係にお申し出ください。

広報しらたかは再生紙を使用しています。